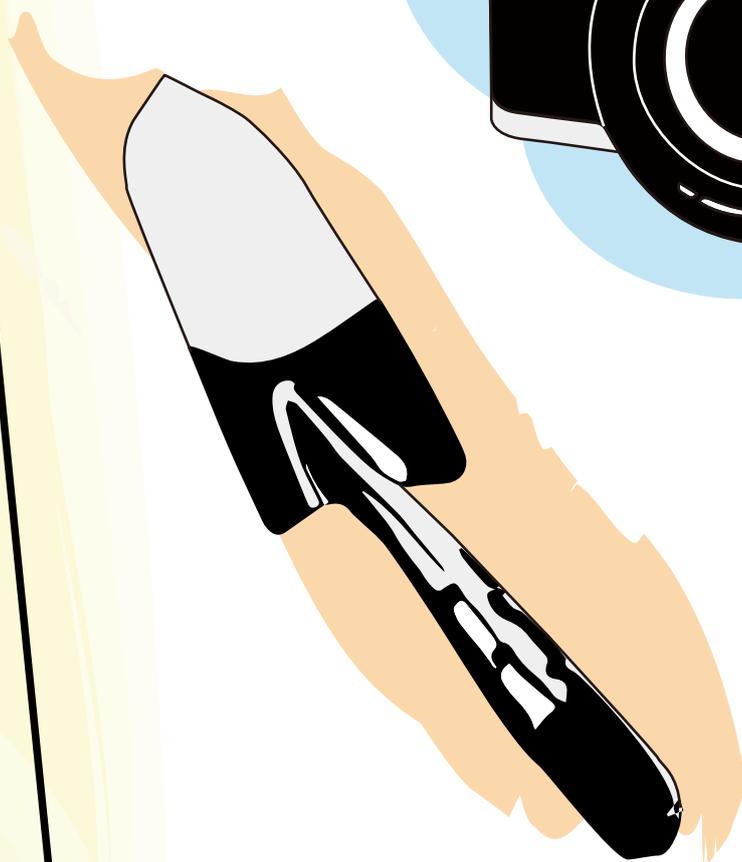
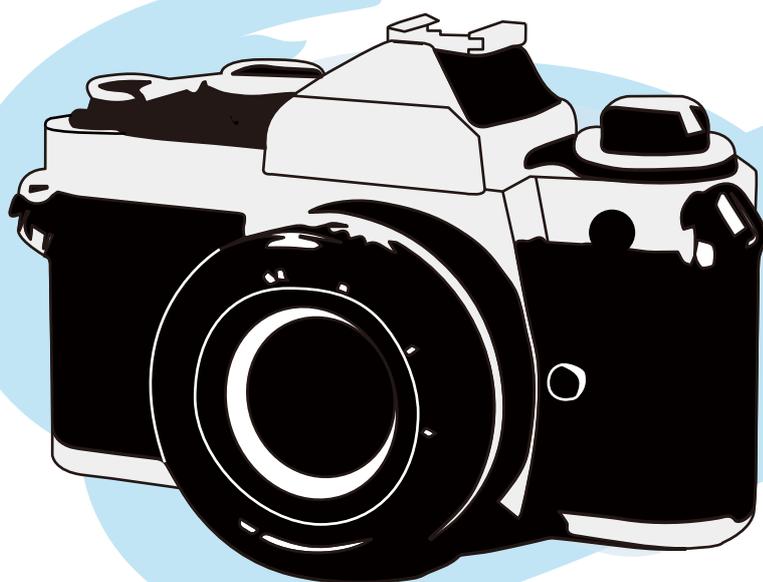


那珂川市の文化財 5

はじめての発掘調査



2023

那珂川市教育委員会



はじめに

みなさんが暮らす地面の下には、大昔の人が生活していたときの家の跡やお墓、使っていた道具などが埋まっています。そういったものを、埋蔵文化財（遺跡）と呼んでいます。埋蔵文化財は、新しく道路を造ったり、家を建てたりするときなどの開発で壊されて無くなってしまいますので、那珂川市が発掘調査を行い、遺跡の情報を後世へ残しています。

発掘調査の種類

- 緊急調査
…開発で失われる
遺跡の調査
- 学術調査
…重要な遺跡の調査

発掘調査の主な手順

試掘・確認調査

〈現地調査〉

表土剥ぎ
遺構検出
遺構掘削
写真撮影
図面作成

〈整理作業〉

洗浄・注記
接合・復元
遺物実測・写真撮影
トレース
報告書執筆

発掘調査ってなにをするの？

地下に遺跡があるかどうかや、遺跡までの深さなどを調べるために、まず試掘・確認調査と呼ばれる試し掘りをします。

発掘調査を行う必要がある場合、大きな重機から小さなスコップまで、たくさんの道具を使って掘り、遺跡の情報を記録します。ここから、調査で実際に何が行われているのか、順番に見ていきましょう！



▲古墳の石室を掘っています。

表土剥ぎ

遺跡の上に堆積している表土を取り除きます。

遺跡は、他の場所から持ってきた盛土や川の氾濫による土砂などの大量の土で埋まっているため、表土剥ぎには重機（ショベルカー）を使うこともあります。

試掘・確認調査でわかった遺跡までの深さを参考に、土の色を見ながら慎重に掘り下げます。



▲重機で少しずつ表土を剥いでいます。

遺構検出・遺構掘削

遺跡が残っている地面まで掘り下げたら、次は作業員さんが道具を使って地面をきれいにし、家やお墓などの跡（遺構）を探します。柱を立てたり、食べ物を保管したりするために使われた穴などは、周りとは違う土で埋まるため、土の色や質が違います。右の写真のように、周りとは違う部分を、少しずつ掘っていきます。



周りの地面の色とくらべて土の色が違います

▲遺構検出の様子

コラム 作業員さんが使っている道具

発掘調査ではたくさんの作業があるので、多くの作業員さんが関わって遺構を掘ります。作業員さんの中にはさまざまな発掘調査の経験を持つ人も多く、遺跡の調査には欠かせない存在です。作業員さんが使う道具には、遺構を掘るための工夫が見られます。



▲スコップやくわの他に、おたまや竹べらなどさまざまな道具を使い分けています。

図面作成

遺構を掘ったら、その形や深さなどを測って、図を書きます。一度発掘した遺跡は、二度と掘る前の状態に戻すことはできないため、できるだけ詳しく記録を残します。

測量の様子▶



写真撮影

図面だけでなく、写真でも記録に残します。デジタルカメラやフィルムカメラで写真を撮るほか、空中からの撮影では、気球やドローンを使うこともあります。

カメラをつけた気球（左）、ドローン（右上）▶
脚立から写真を撮る様子（右下）



現地調査が終わったら…？

現地調査のあとは、見つかった多くの土器や石器など（遺物）を整理し、現地で記録した図面や写真もきちんと整理をする必要があります。そして調査の成果を報告書にまとめることで、発掘調査は完了します。

まずは、見つかった遺物をきれいに洗って（洗浄）、どこから見つかったか分からなくならないように全ての遺物に番号を付けます（注記）。

接合・復元

遺跡から見つかる土器のほとんどが、長い年月によってもろくなっていたり、土の重みでつぶれて壊れたりして、バラバラになっています。それらの土器を、たくさんの破片の中から探して、立体パズルのように組み立てます。足りない部分は石膏を使って補います。



▲土器を並べて接合します。



▲接合された土器

コラム どうして、遺跡の時代がわかるの？

遺跡の時代を知るために利用されるのは、遺跡から出土した土器です。土器は焼いているため腐って無くなったりせずに、全国各地、幅広い時代の遺跡で出土します。土器は、日常生活の中で、たくさん作られて、使われて、そして捨てられました。当時の生活の様子や年代を知るうえで、良好な資料といえます。

土器には、煮炊きにかめやほぞんのためのつぼ、食べ物を盛り付けるたかつきなど、いろいろな種類があります。土器の形や作り方は、地域や時代、人々の生活や社会の変化にあわせて、少しずつ変わっていきました。その微妙な変化を読み取ることで、土器が作られた時代、そして遺跡の時代を知ることができるのです。



▲たとえば同じ電話機でも、時代によって形が違います。受話器やダイヤルは、どのように変化しているでしょうか。

遺物実測

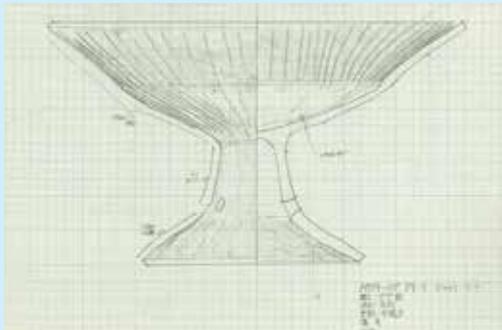
発掘調査で見つかった土器や石器などは、よく観察したうえで、図に書き起こします。形や大きさだけでなく、土器を作るときについた指の跡や、石器を実際に使った痕跡も、その遺物について考えるときの手がかりになります。



▲土器を実測しているところ

写真撮影

現地調査のときと同じように、図面だけでなく写真の記録も残しておきます。実測図と写真を見比べて、どんな違いがあるか探してみましょう。



▲土師器（古墳時代の土器）の高杯の実測図（左）、写真（右）、（松木遺跡群出土）

報告書

現地調査や整理作業で記録した実測図や写真を整理して、発掘調査で見つかった遺構や遺物についてわかったことを報告書にまとめます。那珂川市ではこれまでに100集以上の報告書が作られています。



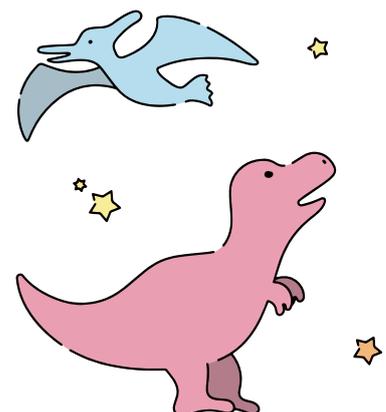
完成！

▲これまでに刊行した報告書

コラム 発掘調査って、恐竜や化石を見つけることじゃないの？

昔の人間について考える学問を「考古学」、人間以外の昔の生き物について考える学問を「古生物学」といいます。どちらも発掘調査のイメージがありますが、埋蔵文化財の発掘調査では、考古学の考え方にもとづいて、家やお墓、道具や食器などの、人間が生活した痕跡を調べます。

恐竜やその化石は、人間が生活するより前の時代の生き物やその痕跡であるため、考古学的な発掘調査の対象ではありません。



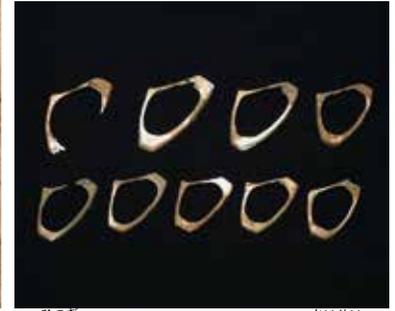
那珂川市で発見された、^{きちょう}貴重な文化財を見てみよう！

国史跡 ^{あんとかだいせき} 安徳台遺跡

安徳台遺跡では、^{あと}弥生時代の家の跡やお墓が見つかりました。弥生時代の集落の移り変わりがよくわかること、^{かめかん}甕棺墓というお墓から^{けんりょく}権力を持つ人の骨や^{ほね}一緒に納められた貴重な遺物が見つかったことなどから、国の史跡に^{してい}指定されています。



▲ 2号甕棺墓・5号甕棺墓



▲ 棺の中から見つかった貝製の腕輪

国史跡 ^{あんとかおつかこふん} 安徳大塚古墳

古墳時代前期に造られた^{ぜんき}前方後円墳で、造られたころの姿をとどめ、^{うつく}美しい墳形をしています。古墳をつくる文化が全国にどのように広まったのか、^{じゅうよう}国家が成立していく大きな変化があった時代を考えるうえで、重要な古墳です。



九州歴史資料館提供

▲ 手前が前方部、奥が後円部

市指定文化財 ^{さんかくぶちしんじゅうきょう} 三角縁神獣鏡・^{みょうほうじ} 妙法寺2号墳出土遺物一括

三角縁神獣鏡には同じ型で作ったもの^{どうはんきょう} (同范鏡)があり、そのうちの1枚が那珂川市で見つかりました。この鏡には、^{かがみ}6体の神像と^{しんぞう}4体の獣像、^{じゅうぞう}銘文が刻まれています。



遺跡から出土した様子 (左) ▶ 接合された状態 (右)

市指定文化財 ^{まるのくちこふんぐんご} 丸ノ口古墳群V群5号墳・^{ろく} VI群2号墳

丸ノ口古墳公園は、6つの古墳を自由に見学できるように^{せいび}整備されています。そのうち2つの^{そうしやく}装飾古墳では、^{こうだ}敲打技法というとてもめずらしい技法で^{えが}描かれた^{もんよう}文様を、今も見ることができます。



▲ 石室に描かれた文様



▲ 丸ノ口古墳公園の様子

コラム やよいしだい こふんしだい
 弥生時代や古墳時代って、どのくらい昔なの？



発掘調査では人々が生活していたあとに残されたものを調べるため、文字での記録がない時代のことや、記録に残らないような実際の生活の様子を知ることができます。

指定されている文化財のほかにも、魅力的な出土品がたくさん！



▲左上から、市内で出土した縄文時代の石器、弥生時代の土器、古墳時代の土器、古墳時代の装身具、カクチガ浦 10 号墳出土の形象埴輪（馬形埴輪・家形埴輪）、今光・宗石遺跡群出土の銅甕

おわりに

「埋蔵文化財」や「発掘調査」は、宝探しのようなイメージを持たれがちですが、発掘調査を行う背景には、開発で失われる遺跡を後世へ残し伝えるという重要な目的があります。そして、遺跡の調査はやり直しができないため、多くの時間と労力をかけ、様々な工程を経て行われています。写真や展示で見ると素晴らしい文化財を未来へ守り伝えていくためには、今を生きる私たちがまず文化財について知ることが大切です。この冊子を通して、発掘調査や那珂川市の文化財について知るきっかけになってもらえれば嬉しいです。



○本誌で紹介した遺跡
●見学できる遺跡

- 1 いまみつ むねいし いせきぐん 今光・宗石遺跡群
- 2 まつのき 松木遺跡群
- 3 まるのくちこふんご ごうふん 丸ノ口古墳群V群5号墳・
ろく VI群2号墳(丸ノ口古墳公園)
- 4 みょうほうじ 妙法寺2号墳
- 5 かんのんやま なかぼるいち みほろ おか 観音山古墳群中原I群36号墳(観晴が丘公園)
- 6 うら カクチガ浦古墳群10号墳
- 7 くに しせき あんどくおつか こふん 国史跡 安徳大塚古墳
- 8 あんどくだい いせき 国史跡 安徳台遺跡
- 9 さくたのうなで 裂田溝(日本遺産)

那珂川市の文化財5
はじめての発掘調査
2023

発行：那珂川市教育委員会
福岡県那珂川市西隈1丁目1番1号

印刷：有限会社 成光社
福岡市南区大楠1丁目29番33号